

大きい勾玉にたくさんの小さな勾玉がついている古墳時代の祭祀の道具！

い せきしゅつ ど こ もちまがたま

マミヤク遺跡 出土子持勾玉



子持勾玉は、大きい勾玉の腹や背に小さな勾玉を貼り付けた形をしており、古墳時代の祭祀に用いられた道具です。

今回、指定した子持勾玉は、現在の港南台一丁目付近にあるマミヤク遺跡から出土しました。

マミヤク遺跡は、昭和 60 年度に発掘調査が行われ、子持勾玉に関連する古墳時代中期では、竪穴住居跡 41 軒・祭祀遺構 2 か所が明らかになっています。

この子持勾玉の大きさは、高さ 9.3cm、幅 3.5cm、厚 3.8cm で、滑石（かつせき）で作られ、大型の勾玉の腹や背、側面に 8 つの小さな勾玉が削り出されています。古墳時代の祭祀の実態を考えるうえで、貴重な事例となっています。

現在、子持勾玉は、木更津市郷土博物館金のすずで展示しております。

市指定文化財：有形文化財（考古資料）

指定年月日：令和 6 年 9 月 24 日

所在地：木更津市太田 2-16-2 （木更津市郷土博物館金のすず）

所有者：木更津市

員数：1 点

公開・非公開の別：公開
